

# えが

## 第330号

# 公民館報

御意見・御希望・お問い合わせは四賀公民館まで… TEL 64-3112

### 四賀の世帯数・人口

|     |       |    |
|-----|-------|----|
| 世帯数 | 1,925 | 世帯 |
| 人口  | 4,303 | 人  |
| 男   | 2,077 | 人  |
| 女   | 2,226 | 人  |

(令和2年9月1日現在)

## 四賀の防災を考える 危機感を持って災害に備えよう

四賀地区では各町会ごとに防災組織があり、防災部長が選任されています。しかし具体的な活動実績のない町会も多いのが実情です。近年は日本各地で豪雨による洪水や土砂崩れが多発しています。昨年の台風19号に伴う大雨では保福寺川や会田川の堤防が崩れかける被害が出ました。また今年の7月8日には大雨により全市域に避難勧告が発令される事態となりました。災害への備えはまったなしの状況にあります。

今号では、こうした危機感を背景に8月に開催された「四賀地区防災学習会」の内容を紹介いたします。今後も折にふれ防災について考える記事を載せていく予定です。

### ● 四賀地区防災学習会 ●

8月20日に支所ピナスホールで、町会長、防災部長、民生児童委員、市の避難所担当職員など76名が参加して開催されました。防災について学ぶと同時に、「避難所運営委員会」の設置に向けての関係者の初顔合わせの機会ともなり



ました。最初市の危機管理課の防災専門官・宮坂政行さんが「高めの防災力」のテーマで講演しました。

そのなかで四賀地区の地形的特徴と地質などの説明がありました。標高1,000〜1,600メートルの山地に囲まれた盆地であること。四賀地区に通じる道路はすべて土砂災害の危険性があり、孤立の可能性があること。地質はもろく、山間地は崩れやすい。さらに松本周辺には糸魚川静岡構造線という大きな断層が走っており、地震の危険性の高い地域であることも再認識しました。

いざ災害が起こったときは、まず自分や家族の命を守り、さらに近隣同士で助け合うことが大切です。過去の災害でも消防などの救助隊に助け出された人は全体の2%以下です。緊急時に行政のみに頼っているだけでは命を守れません。避

難所も住民が自主的に運営することが原則です。

学習会の最後には、各地区で開設が予定される避難所ごとに分科会を開き、自己紹介や意見交換を行いました。具体的取り組みについてはまだ手探りの段階ですが、事前準備不足での避難所開設は無秩序と混乱を引き起こすことは、熊本地震や中越地震でも明らかになっています。災害の危険度の高い地区の住民として、意識を高め、万が一の災害に備えていきたいものです。

### ● 四賀地区は震度7から6強 ●

日本は世界有数の地震国で、マグニチュード6以上の世界の大地震のうち2割が日本付近で起こっています。松本市周辺で懸念される地震としては、糸魚川静岡構造線断層帯が揺れた場合で、もし断層全体が活動すると、四賀地区は震度7から6強が予想されています。震度7では立っていることができず、固定していない家具はほとんどが移動し、倒れ、耐震性の低い木造家屋は傾くものや倒壊するものが非常に多くなります。この断層帯の今後30年以内の地震発生確率は、14〜30%と、国内でもトップクラスの危険度です。

## 買い物に困っている方へ

地区内のスーパーが閉店し買物にお困りの方に朗報です。7月から食品や日用品を扱う移動販売車が四賀地区内を週3回巡回しています。新鮮な刺身、寿司、総菜、肉、野菜、果物、パンなどの食品からティッシュなどの日用品まで、200点の商品を満載しています。

他にも毎週金曜日の昼から午後3時頃まで、青果の移動販売車が支所前に来ています。他にも移動販売や宅配のサービスがあります。じょうずに活用し、食生活を豊かにしましょう。詳細を知りたい方は、四賀公民館までご連絡ください。

四賀公民館 ☎64-3112



## 四賀の祭り①

会田御厨神明宮  
秋の祭典

御厨神明宮の歴史は古く、鎌倉時代とされています。

毎年10月の第1土・日曜日に会田宮本の神明宮で、宵祭り・昼祭りが2日間催行されます。昔は1か月の時間を祭りに費やしたといいますが、半月になり、そして現在は2日間となりました。

本年度はコロナウィルスの影響で船の曳航は中止となり、神事のみとなりましたが、各町会とも、町並みに注連縄張り、各戸の提灯の設置は行います。



宮本の船

祭りには、新町、本町、宮本、西宮(客)の四町会が関わり催行されます。それぞれ

の町会が船(舞台)を曳航して宵祭りは午後8時に、昼祭りは午後1時30分に宮本の神明宮に集結。まず、西宮↓本町↓新町↓宮本の順で社頭を目指し駆け上がりします。境内の道は坂道ばかり、途中から舗装はなくなり、凸凹の土の道、どの船も右に左に傾きながら社頭を目指します。

社頭に到着すると、宮社に向かう斜度40度近い石段を「今年は何段上げられるか」と言いながら引手、舵取り一丸となつて引き上げます。どの町会も曳綱に人々が加勢して飛



石段を引き上げ

びつきます。囃子の宮人の笛太鼓も鳴り響き後押しします。祭りのクライマックスの感があり、大いに盛り上がりします。社頭に4艘の船が並び神事が行われます。先程までの喧騒が収まり、厳かな静けさが漂います。この時が何とも言えず好きです。お神酒を頂きます。約2時間、船(舞台)を奉納し帰途に着きます。これを、夜・昼繰り返します。

昔、30〜40年前は、境内には、おもちゃ・菓子・食べ物屋など、屋台が所狭しと軒を連ねていましたが、今は数軒しかなく随分と寂しくなつてしまったのが残念です。

私は、新町に在住していますが、昼祭りの神明宮参詣終了後町祭りをしています。祭りの終盤、へとへとで、ちよつと飲み過ぎの状態で町中を囃子の音色を響かせながら船を曳航します。門々には人々が立ち応援します。秋の夕闇に向かう時間帯、もう少しで終わり、寂しくも、最後の力を振り絞り曳航します。中々の雰囲気です。

この祭り新町は3常会当番制で1年交替でやります。祭りの準備から仕切まで続けていますが、子

ども、若者の減少と問題は山積。しかし、伝統行事、何とか存続していきたいものです。神明宮では、20年に1回特別な祭り「ご遷宮」が3年後開催されます。稚児行列や20年に一度の神事が盛大に行われます。



町中を曳航



新町の町中

## 湧き水

▼今年は新型コロナウイルスの影響で、地元の常会の花見も盆踊りも収穫祭も中止。秋祭りも神事のみで、近所の人と談笑する機会もぐんと減ってしまいました。たまた

ま常会の会計を担当しており、例年なら各行事の料理の手配やら買い出しで忙しい役目のはずが、常会費を集めるだけの閑職になりました。

▼何もかもが自粛や縮小ですが、後ろを向いてばかりもいられません。ネット初心者ながらズーム井戸端会議で遠くの友達とおしゃべりしたり、コロナで休演が続く海外の有名バレエ団が無料公開している過去の名演をネット鑑賞したり、ゲーグルマップを利用してバーチャル海外旅行もできました。好きな時間に無料でできる新しい趣味ができたのは、思わぬ収穫でした。

▼松本市の消費応援キャンペーン第2弾を利用するため、ペイペイにも登録しました。最大30%還元はとても魅力的です。初老に差し掛かり、もう世の中の新しい仕組みにはついていけないと諦めかけていましたが、欲と二人連れで、何とか食らいついていきたいと思えます。